

熊本県熊本市より

赤坂クリニック

院長 **赤坂朋紀**先生



代替わりし、理事長になった父と一緒に毎日の診療に励んでいます。同じように患者さんも高齢化し動脈硬化性疾患や心不全の方が増えてきています。そんな中、私が循環器の専門ということもあり、心血管リハビリテーションを外来で新たに導入し、患者さんを包括的にケアしていくことに力を入れています。息切れが減った、胸や足の痛みが減った、スーパーまで1人で行けるようになった等の感想を聞くと、とてもうれしくやりがいを感じています。

愛媛県松山市より

野村胃腸科内科医院

院長 **野村実**先生



熱帯熱マラリアを愛媛県で初めて診断したことです。某病院に入院するも熱が下がらないと当院を受診。40℃の熱が続き、顔は紅潮していましたが悪寒戦慄がありませんでした。症状を『旅行医学』で読んだことがあり、旅行歴を伺うとアフリカへ行ったとのこと。検査を依頼し、大学病院でマラリアと確定。2~3日遅れていたら**デニアシ**を起こして命がない状態でした。年間150回以上の講演会参加、最新医療の情報入手を実施していたことで患者様の命を救うことができました。

大分県大分市より

医療法人仁真会真央クリニック

院長 **佐藤真一**先生



こんなこともあるのだなあとと思った、母親、姉、妹の3人で来院された家族のお話です。3歳の妹さんが額の割創で、血が止まらず夜間に当院受診。縫合を終え、母親と横で微笑んでいる女の子を見て、どこか見覚えがあるなあと直感。母親に聞くと、3年前に東京から大分帰省中に受診された子どもでした。当時お姉さんは3歳。顎を割創し当院で縫合。お姉さんが6歳になり、お腹の中にいた7カ月の妹さんは3歳に成長。とっても落ち着いていて、お利口だった理由は実は2回目の来院のためかなと談笑し、ご家族全員、最後はみんなで一緒に笑顔になりました。

愛媛県今治市より

社会福祉法人恩賜財団
済生会今治病院

部長 **藤堂裕彦**先生



内分泌・糖尿病領域を専門としています。どの患者さんが特にというのではないのですが、バセドウ病や1型糖尿病の患者さんが妊娠・出産を無事に終わるとホッとします。産後最初の外来に赤ちゃんを連れてきてくれたりすると、とてもうれしく感じます。

新潟県新潟市より

たじま内科クリニック

院長 **田島俊児**先生



大学病院時代の間質性肺炎の患者さんです。厳しい状況でしたが、治療が奏効し、無事に退院されました。約7年が経ちましたが、私のクリニック開業を耳にして、わざわざ受診してくれました。職場復帰の喜びと感謝の意を伝えてくださった笑顔は、今も私の励みになっております。

栃木県佐野市より

佐野厚生総合病院 循環器内科

副院長 **渡辺慎太郎**先生



心筋梗塞の70代女性、救急車で心停止となりアドレナリンで心拍再開。この時、低体温療法の導入と維持を推進しており、冷生食点滴、カテーテル治療、体温維持療法でほぼ神経障害を残さずに社会復帰。現在私の外来に笑顔で通っておられます。人工心肺がなく我々のできる最善が低体温療法でした。高額な理想の追求を最近よく目にし翻弄されることもあります。地道で現実的な活動の価値を実感し勇気づけられました。

新潟県新潟市より

月潟内科クリニック

院長 **廣野 暁**先生



初期研修を終えて新潟大学第一内科に入局したばかりの頃、関連病院から搬送された男性。遷延する活動性筋炎に伴う低心機能状態が長く続いていましたが、ステロイドパルス療法が奏功し独歩退院にこぎ着けることができました。治療の過程で恩師との出会いがあり、博士論文のテーマにもなり、ひいては海外留学の足掛かりとなった忘れ得ない患者さんです。

広島県広島市より

女医によるファミリークリニック

院長 **竹中美恵子**先生



まだ若い女の子です。その少女は重いぜんそく発作で入退院を繰り返していました。「先生、人間が本当につらいのは肉体的な苦しみでも精神的な苦しみでもない、息ができない時なんです」と言った彼女の言葉を忘れることができません。ひたむきに病氣と闘い続ける姿に生きようとする力強さを学びました。